

令和 **3** 年度
全国学力・学習状況調査

報告書

児童生徒一人一人の学力・学習状況に
応じた学習指導の改善・充実に向けて

小学校
国語

令和 **3** 年 **8** 月
文部科学省 国立教育政策研究所

目 次

1. 調査の概要	1
(1) 調査の目的	2
(2) 調査の対象とする児童生徒	2
(3) 調査事項及び手法	2
(4) 調査の方式	3
(5) 調査日時	3
(6) 集計児童生徒・学校数	4
(7) 調査結果の解釈等に関する留意事項	6
2. 教科に関する調査の結果（概要）	7
(1) 調査問題の内容，課題等，指導改善のポイント	8
(2) 集計結果（正答等の状況）	10
(3) 地域の規模等の状況	12
(4) 都道府県・指定都市の状況	12
(5) 教育委員会の状況	13
(6) 学校の状況	13
(7) 国・公・私立学校の状況	14
3. 教科に関する調査の各問題の分析結果と課題	15
(1) 「3. 教科に関する調査の各問題の分析結果と課題」の見方	16
(2) 小学校 国語	19
① 調べたことについて，資料を使ってスピーチをする（津田梅子の紹介）	21
② 説明的な文章を読み，分かったことをまとめる（「面ファスナー」）	30
③ 自分の考えを主張する文章を書く	42

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象とする児童生徒

【小学校調査】

小学校第6学年，義務教育学校前期課程第6学年，特別支援学校小学部第6学年

【中学校調査】

中学校第3学年，義務教育学校後期課程第3学年，
中等教育学校前期課程第3学年，特別支援学校中学部第3学年

(3) 調査事項及び手法

① 児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査〔国語，算数・数学〕

国語，算数・数学はそれぞれ次の(ア)と(イ)を一体的に出題。

(ア) 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

(イ) 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査問題は学習指導要領（小学校調査においては平成29年告示，中学校調査においては平成20年告示）に示された目標及び内容等に基づいて作成。

イ 質問紙調査

学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施。本年度の主な調査項目は以下のとおり。

- ・挑戦心，達成感，規範意識，自己有用感等
- ・ICTを活用した学習状況
- ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
- ・学習に対する興味・関心や授業の理解度等
- ・新型コロナウイルス感染症の影響

② 学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施。

本年度の主な調査項目は以下のとおり。

- ・生徒指導等
- ・学校運営に関する状況／教職員の資質向上に関する状況
- ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
- ・ICTを活用した学習状況
- ・各教科の指導方法
- ・新型コロナウイルス感染症の影響

※調査項目は毎年度文部科学省において決定。

※全国学力・学習状況調査の開始当初（平成19年度）と比べて質問紙調査の質問項目数が増加し、平成30年度より、毎年調査する項目と数年おきに調査する項目を分別し、質問項目数を選定。

(4) 調査の方式
 悉皆調査

(5) 調査日時
 令和3年5月27日(木)

【小学校調査】

1 時限目	2 時限目	
国語 (45 分)	算数 (45 分)	児童質問紙 (20～40 分程度)

【中学校調査】

1 時限目	2 時限目	
国語 (50 分)	数学 (50 分)	生徒質問紙 (20～45 分程度)

※児童生徒質問紙調査は、一部の国立大学附属学校において、PC・タブレット等の端末を活用したオンラインによる回答方式で実施。

(6) 集計児童生徒・学校数

① 集計基準

児童生徒に対する調査について、令和3年5月27日に実施された教科に関する調査及び質問紙調査の結果を集計。学校に対する質問紙調査については、在籍する児童生徒が調査を実施した学校の結果を集計。

② 集計児童生徒数

(小学校第6学年，義務教育学校前期課程第6学年，特別支援学校小学部第6学年)

	調査対象児童数※1	5月27日に調査を実施した児童数※2	【参考】 5月27日～6月30日に調査を実施した児童数
公立	1,040,907人	994,101人	1,009,674人
国立	6,393人	4,932人	6,308人
私立	13,071人	6,567人	6,911人
合計	1,060,371人	1,005,600人	1,022,893人

(中学校第3学年，義務教育学校後期課程第3学年，
中等教育学校前期課程第3学年，特別支援学校中学部第3学年)

	調査対象生徒数※1	5月27日に調査を実施した生徒数※2	【参考】 5月27日～6月30日に調査を実施した生徒数
公立	989,824人	903,253人	919,949人
国立	10,146人	7,616人	9,851人
私立	81,250人	22,126人	26,261人
合計	1,092,580人	932,995人	956,061人

※1 調査対象児童生徒数について、公立・国立は、調査実施前に学校から申告された児童生徒数、私立は、令和2年度学校基本調査による。調査当日までの転入出等により増減の可能性がある。

※2 調査を実施した児童生徒数は、回収した解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出。

③ 集計学校数

(小学校, 義務教育学校前期課程, 特別支援学校小学部)

	調査対象者の 在籍する学校 数	5月27日に調査を 実施した学校数 (実施率%)	【参考】 5月28日～6月30日 に調査を実施し た学校数	【参考】 5月27日～6月30日に 調査を実施した学校 数 (実施率%)
公立	18,965校	18,857校 (99.4%)	82校	18,939校 (99.9%)
国立	75校	61校 (81.3%)	14校	75校 (100.0%)
私立	240校	120校 (50.0%)	7校	127校 (52.9%)
合計	19,280校	19,038校 (98.7%)	103校	19,141校 (99.3%)

(中学校, 義務教育学校後期課程, 中等教育学校前期課程, 特別支援学校中学部)

	調査対象者の 在籍する学校 数	5月27日に調査を 実施した学校数 (実施率%)	【参考】 5月28日～6月30日 に調査を実施し た学校数	【参考】 5月27日～6月30日に 調査を実施した学校 数 (実施率%)
公立	9,475校	9,320校 (98.4%)	130校	9,450校 (99.7%)
国立	80校	63校 (78.8%)	17校	80校 (100.0%)
私立	761校	297校 (39.0%)	37校	334校 (43.9%)
合計	10,316校	9,680校 (93.8%)	184校	9,864校 (95.6%)

(7) 調査結果の解釈等に関する留意事項

本調査は、幅広く児童生徒の学力や学習状況等を把握することなどを目的として実施しているが、実施教科が特定の教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではないことなどから、本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であること、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意することが必要である。

本調査の結果においては、国語、算数・数学ごとの平均正答数、平均正答率等の数値を示しているが、平均正答数、平均正答率のみならず、中央値、標準偏差等の数値や分布の状況を表すグラフの形状など他の情報と合わせて総合的に結果を分析、評価することが必要である。また、個々の問題や領域等に着目して学習指導上の課題を把握・分析し、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることも重要である。

<用語説明>

語句	説明
平均正答数	児童生徒の正答数の平均。
平均正答率	平均正答数を百分率で表示。 ○国語、算数・数学ごとの平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率（概数）。 ○学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式、問題ごとの平均正答率は、それぞれの正答児童生徒数を全体の児童生徒数で割った値の百分率。
中央値	集団のデータを大きさの順に並べた時に真ん中に位置する値。 平均値とともに集団における代表値として捉えられる。
最頻値	集団のデータにおいて、最も多く現れる値。
標準偏差	集団のデータの平均値からの離れ具合（散らばりの度合い）を表す数値。標準偏差が0とは、ばらつきがない（データの値が全て同じ）ことを意味する。
相関係数	二つの変数間の関係の程度を一つの数値で表す指標。相関係数は、-1から1までの範囲の値をとり、1に近いほど正の相関、-1に近いほど負の相関が強いことを表す。
解答類型	各問題についての正答、予想される解答などの解答状況を分類し整理したもの。

2. 教科に関する調査の結果（概要）

(1) 調査問題の内容, 課題等, 指導改善のポイント

○調査問題の内容

学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕, 〔思考力, 判断力, 表現力等〕の内容に基づき, 全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題している。なお, 小学校第5学年までの内容となるようにしている。

- (例) ■ 津田梅子について調べて紹介する【スピーチ】で, どのような構成で話しているか, 適切なものを選択する。
- 面ファスナーについて書かれた【資料】を読み, 文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付け, 面ファスナーのくっつく仕組みを書く。
- 自分の考えが伝わるように, 反対する理由を明確にして, 【文章の下書き】の ----- 部を詳しく書き直す。
- 【文章の下書き】の中の —— 部を漢字を使って書き直す。

○課題等

〔知識及び技能〕

言葉の特徴や使い方に関する事項

- ◇ 思考に関わる語句の使い方を理解し, 話や文章の中で使うことはできている。〔 2二 〕
- ◆ 文の中における主語と述語との関係, 修飾と被修飾との関係を捉えることに課題がある。〔 3三(2)イ, オ 〕

〔思考力, 判断力, 表現力等〕

話すこと・聞くこと

- ◇ 目的に応じて, 話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考えることはできている。〔 1一 〕
- ◇ 資料を用いる目的を理解したり, 目的や意図に応じて, 資料を使って話したりすることはできている。〔 1二, 三 〕

書くこと

- ◆ 目的や意図に応じて, 理由を明確にしながら, 自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。〔 3二 〕

読むこと

- ◇ 文章全体の構成を捉え, 内容の中心となる事柄を把握することはできている。〔 2一 〕
- ◆ 目的に応じて, 文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けることに課題がある。〔 2三 〕
- ◆ 目的を意識して, 中心となる語や文を見付けて要約することに課題がある。〔 2四 〕

◇…比較的できている点 ◆…課題のある点 [] 内の記号は, 問題番号

○指導改善のポイント

〔知識及び技能〕

言葉の特徴や使い方に関する事項

○ 文の中における主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係を捉える指導の充実

- ・ 主語と述語との関係や修飾と被修飾との関係に気を付けて文を整えることが、自分の思いや考えを正確に伝える上で重要であることに気付くことができるように指導することが大切である。
〔思考力、判断力、表現力等〕の「B書くこと」の「推敲」に関する指導事項などとの関連を図り、指導の効果を高めることが考えられる。自分が書いた文章を読み返す際に、読み手の立場に立って、言葉の使い方を確認する習慣を身に付けることが重要である。

〔思考力、判断力、表現力等〕

話すこと・聞くこと

○ 資料を活用して、自分の考えが伝わるように表現を工夫する指導の充実

- ・ 表現を工夫するためには、目的や意図に応じて、どのような資料を用意すればよいかを考えることが重要である。その上で、聞き手に提示する資料のどの部分に着目してほしいのか、どのような説明を加えると話の内容を分かりやすく伝えられるのかについて検討し、自分の表現に生かすことができるように指導することが大切である。発表を相互に見合ったり、話す様子や聞き手の様子を動画で撮影したりして、自らの表現や聞き手の反応を客観的に捉えることができるように指導することが効果的である。

書くこと

○ 目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する指導の充実

- ・ 自分の考えが伝わるように書くためには、目的や意図に応じて、詳しく書く必要がある場合や簡単に書いた方が効果的である場合を、自ら判断して書くことが重要である。その上で、事実と感想、意見とを区別して書くことができるように指導することが大切である。自分の考えとそれを支える理由や事例といった関係性が明確になっているか、事例は客観的な事実裏付けられているかなどを確かめて、自分の考えを深めることができるように指導することが効果的である。

読むこと

○ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する指導の充実

- ・ 要約するとは、文章全体の内容を正確に把握した上で、元の文章の構成や表現をそのまま生かしたり自分の言葉を用いたりして、文章の内容を短くまとめることである。要約する目的を意識して、文章全体から内容の中心となる語や文を選び、要約の分量などを考えて要約することができるように指導することが大切である。

○ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける指導の充実

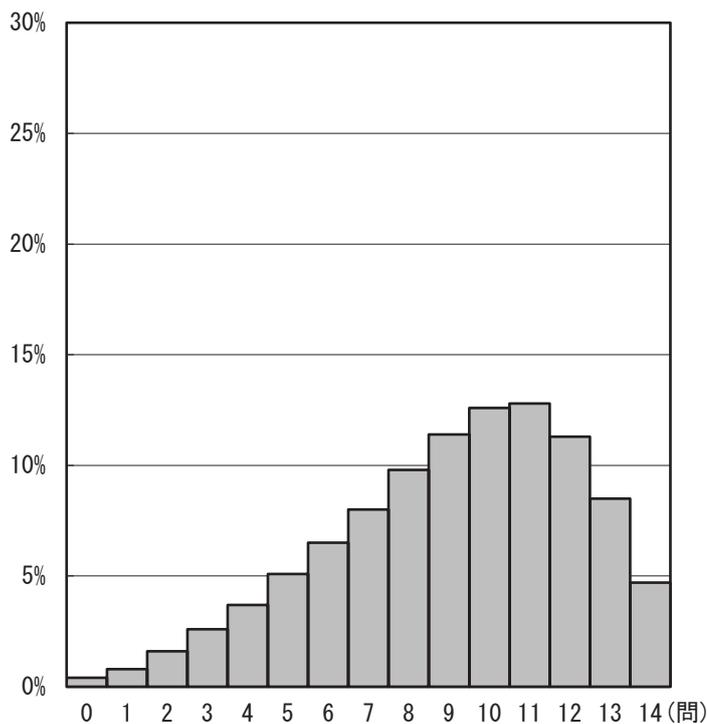
- ・ 図表やグラフなどを含む文章を読む際には、文章中に用いられている図表などが、文章のどの部分と結び付くのかを明らかにし、文章と図表などとの関係を捉えて読むことが重要である。その上で、必要な情報を結び付けて内容を理解することができるように指導することが大切である。

(2) 集計結果 (正答等の状況)

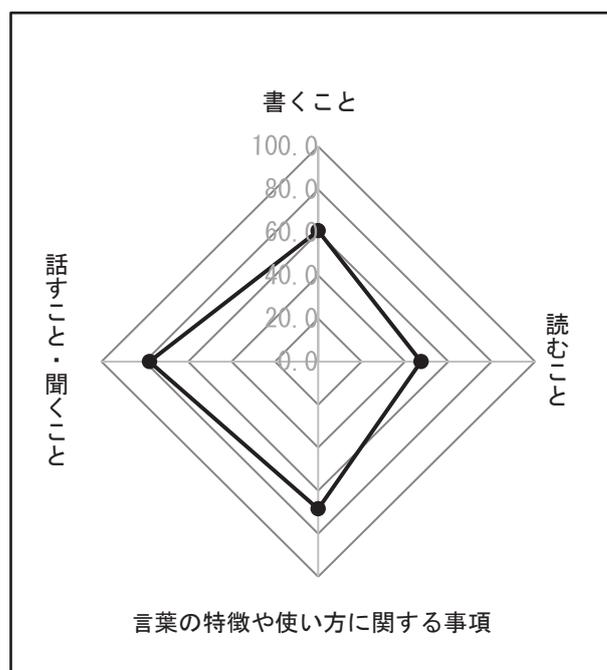
【国語】

児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差	最頻値
1,005,469 人	9.1 問/14 問	64.9%	10.0 問	3.1	11 問

正答数分布グラフ (横軸:正答数, 縦軸:児童の割合)



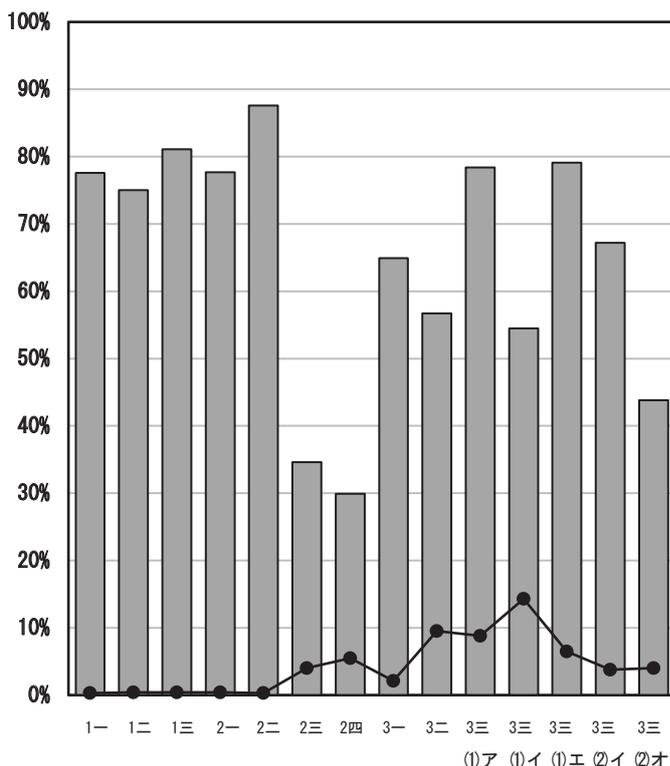
学習指導要領の領域等の平均正答率



分類・区分別集計結果

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)	
学習指導要領の内容	知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	6	68.5
		情報の扱い方に関する事項	0	
		我が国の言語文化に関する事項	0	
	思考力, 判断力, 表現力等	話すこと・聞くこと	3	77.9
		書くこと	2	60.8
		読むこと	3	47.4
評価の観点	知識・技能	6	68.5	
	思考・判断・表現	8	62.2	
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	8	71.9	
	短答式	3	70.7	
	記述式	3	40.4	

問題別正答率「棒」・無解答率「折れ線」
(横軸:問題番号, 縦軸:児童の割合)



問題別集計結果

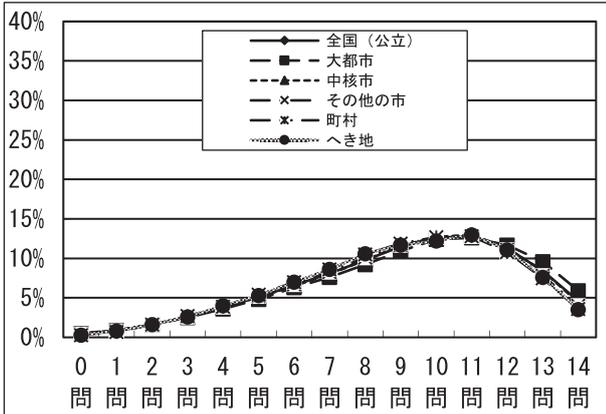
問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容					評価の観点	問題形式	正答率 (%)	無解答率 (%)			
			知識及び技能		思考力、判断力、表現力等									
			言葉の特徴や使い方に 関する事項	情報の扱い方に 関する事項	我が国の言語文化に 関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと					読むこと	知識・技能	思考・判断・表現
1一	津田梅子の二つの業績を明確に伝えるために、【スピーチメモ】と【スピーチ】の練習で上野さんが話した構成の説明として適切なものを選択する	目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える				5・6 イ				○	○		77.6	0.3
1二	津田梅子についての【スピーチ】の練習で、【資料②】と【資料③】を使った理由の説明として適切なものを選択する	資料を用いた目的を理解する				5・6 ウ				○	○		75.0	0.4
1三	津田梅子についての【スピーチ】の練習の【 】の部分で話す内容として適切なものを選択する	目的や意図に応じ、資料を使って話す				5・6 ウ				○	○		81.1	0.4
2一	面ファスナーに関する【資料】の文章が、何について、どのように書かれているかの説明として適切なものを選択する	文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する						5・6 ア		○	○		77.7	0.4
2二	面ファスナーに関する【資料】の文章の中の「より」と同じ使い方として適切なものを選択する	思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う	5・6 オ							○	○		87.6	0.3
2三	面ファスナーに関する【資料】を読み、メストラは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出したのかをまとめて書く	目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける						5・6 ウ		○		○	34.6	4.0
2四	面ファスナーに関する【資料】を読み、面ファスナーが、国際宇宙ステーションの中でどのように使われているのかをまとめて書く	目的を意識して、中心となる話や文を見付けて要約する						3・4 ウ		○		○	29.9	5.5
3一	丸山さんの【文章の下書き】の構成についての説明として適切なものを選択する	自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える				5・6 イ				○	○		64.9	2.1
3二	丸山さんの【文章の下書き】の【 】部を【西田さんの話】を用いて詳しく書き直す	目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する				5・6 ウ				○		○	56.7	9.5
3三(1)ア	丸山さんの【文章の下書き】の中の【 】部アを、漢字を使って書き直す(ころがつている)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	5・6 エ							○		○	78.4	8.8
3三(1)ウ	丸山さんの【文章の下書き】の中の【 】部ウを、漢字を使って書き直す(つみ重ね)		5・6 エ							○		○	54.5	14.3
3三(1)エ	丸山さんの【文章の下書き】の中の【 】部エを、漢字を使って書き直す(げんいん)		5・6 エ								○		○	79.1
3三(2)イ	丸山さんの【文章の下書き】の中の【 】部イで、【 】部「残されています」の主語として適切なものを選択する	文の中における主語と述語との関係を捉える	3・4 カ							○		○	67.2	3.8
3三(2)オ	丸山さんの【文章の下書き】の中の【 】部オで、【 】部「すぐに」がくわくしている言葉として適切なものを選択する	文の中における修飾と被修飾との関係を捉える	3・4 カ							○		○	43.8	4.0

(3) 地域の規模等の状況

○ 平均正答数、平均正答率、中央値、標準偏差を見ると、地域の規模等（公立：大都市、中核市、その他の市、町村、へき地）による大きな差は見られない。

[国語]

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：児童の割合）



	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
全国(公立)	993,975	9.1 / 14	64.7	9.0	3.1
大都市	272,358	9.2 / 14	65.9	10.0	3.1
中核市	231,335	9.1 / 14	64.7	9.0	3.1
その他の市	406,092	9.0 / 14	64.2	9.0	3.1
町村	83,855	8.9 / 14	63.7	9.0	3.0
へき地	16,134	8.9 / 14	63.8	9.0	3.0

※大都市（政令指定都市及び東京23区）、中核市、その他の市、町村の値は、当該地方公共団体の教育委員会が設置管理する公立学校に在籍する児童の調査結果（正答数）を集計したものである（都道府県立学校は含まない）。

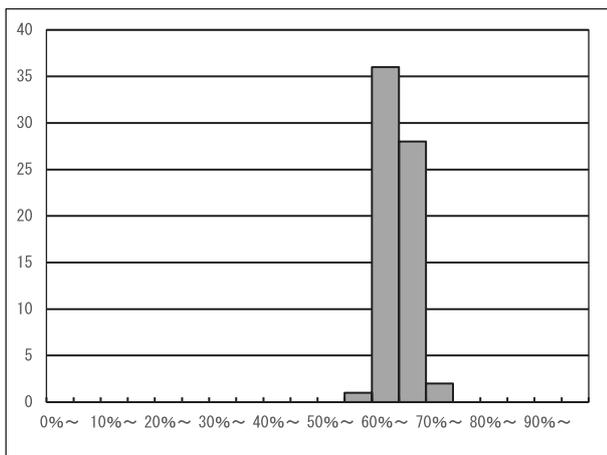
※へき地の値は、へき地教育振興法及び各都道府県の条例（規則）によって指定された学校に在籍する児童の調査結果を集計したものである。大都市、中核市、その他の市、町村の値に重複する。

(4) 都道府県・指定都市の状況

○ 各都道府県・指定都市（公立）の状況については、全ての都道府県・指定都市が平均正答率の±10%の範囲内であり、大きな差は見られない。

[国語]

正答率分布グラフ（横軸：平均正答率、縦軸：都道府県・指定都市数）



全国（公立）の平均正答率	全都道府県市（公立）中、最高平均正答率【全国との差】	全都道府県市（公立）中、最低平均正答率【全国との差】
65%	71% 【+6%】	59% 【-6%】

※都道府県は指定都市を除く。全国（公立）の平均正答率は整数値で表示している。

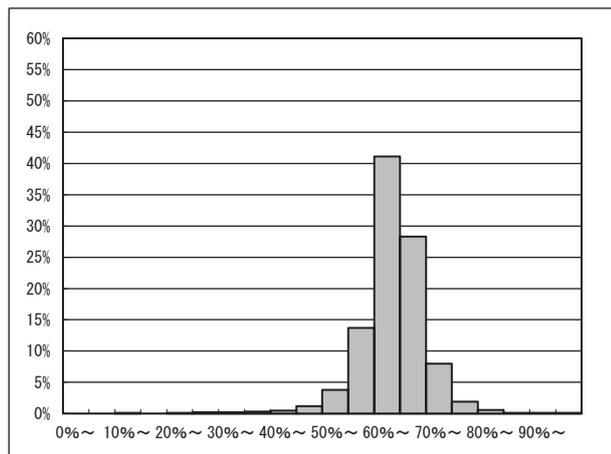
(5) 教育委員会の状況

○ 各教育委員会の状況については、全国平均からの離れ具合を表す平均正答率の標準偏差を見ると、平成31年度と比べ、ばらつきに大きな変化は見られない。

[国語]

教育委員会数	教育委員会の平均正答数	教育委員会の平均正答率(%)	教育委員会の中央値(%)	教育委員会の標準偏差
1,785	8.9 / 14	63.6	63.9	6.4

正答率分布グラフ（横軸：平均正答率，縦軸：教育委員会の割合）



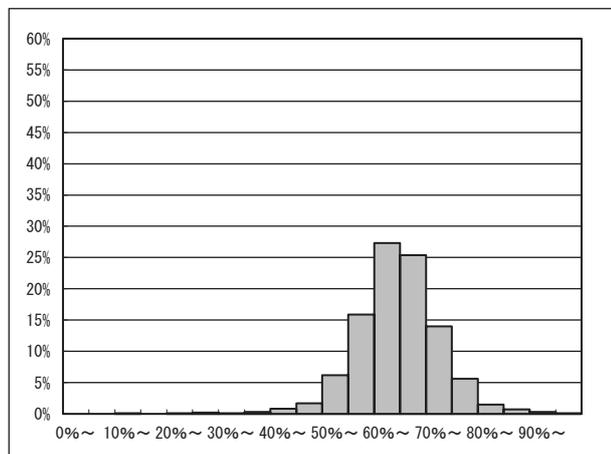
(6) 学校の状況

○ 各学校の状況については、全国平均からの離れ具合を表す平均正答率の標準偏差を見ると、平成31年度と比べ、ばらつきに大きな変化は見られない。

[国語]

学校数	学校の平均正答数	学校の平均正答率(%)	学校の中央値(%)	学校の標準偏差
19,038	9.0 / 14	64.5	64.5	8.1

正答率分布グラフ（横軸：平均正答率，縦軸：学校の割合）

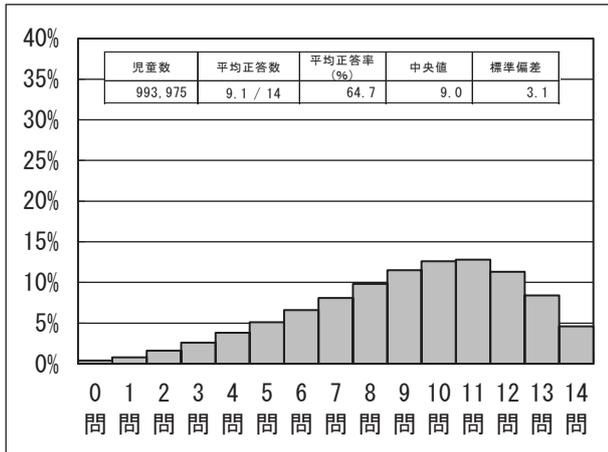


(7) 国・公・私立学校の状況

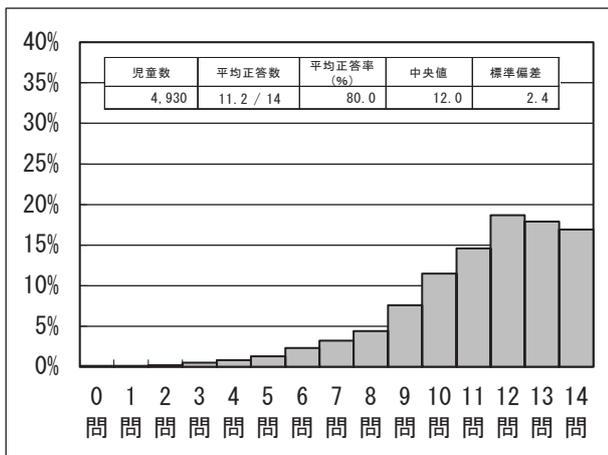
○ 国立・私立学校は一般的に入学者選抜を行っていることに留意する必要があるが、平均正答数について見ると、国立・私立学校は、公立学校を上回っている。

[国語]

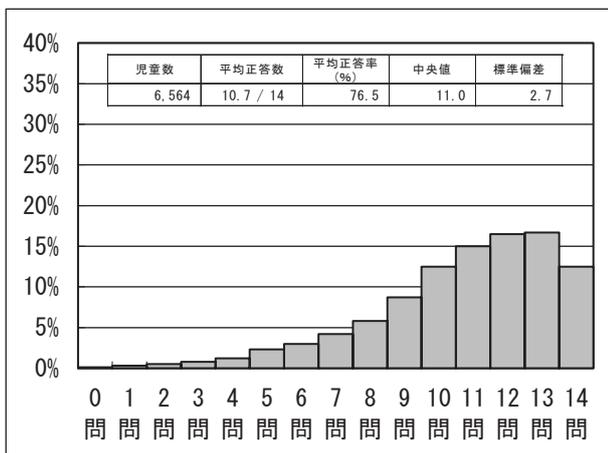
＜公立＞ 正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：児童の割合）



＜国立＞ 正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：児童の割合）



＜私立＞ 正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：児童の割合）



3. 教科に関する調査の各問題の分析結果と課題

(1) 「3. 教科に関する調査の各問題の分析結果と課題」の見方

調査問題について、出題の趣旨、学習指導要領における内容、解答類型と反応率、分析結果と課題、学習指導に当たってなどを記述しています。

問題画像
調査問題を縮小して掲載しています。

出題の趣旨
問題ごとに、出題の意図、把握しようとする力、場面設定などを記述しています。

趣旨
設問ごとの出題の意図、把握しようとする力などを記述しています。
■学習指導要領における内容
 調査対象学年及び他の学年の児童生徒への学習指導の改善・充実を図る際に参考となるように、関係する学習指導要領における内容を示しています。

1. 解答類型と反応率
解答類型ごとの反応率、正答の条件を示しています。(詳細は下欄参照)

教科名○

問題画像

出題の趣旨

.....

.....

設問○
趣旨

.....

.....

■学習指導要領における内容
〔第○学年〕

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
1	○	◎
2
3
4
5	上記以外の解答
0	無解答

解答類型と反応率

解答類型は、児童生徒一人一人の具体的な解答状況を把握することができるように、設定する条件等に即して解答を分類、整理したものです。正誤だけではなく、児童生徒一人一人の解答の状況（どこでつまづいているのか）等に注目した学習指導の改善・充実を図る際に活用することができます。

<正答>

「◎」… 解答として求める条件を全て満たしている正答

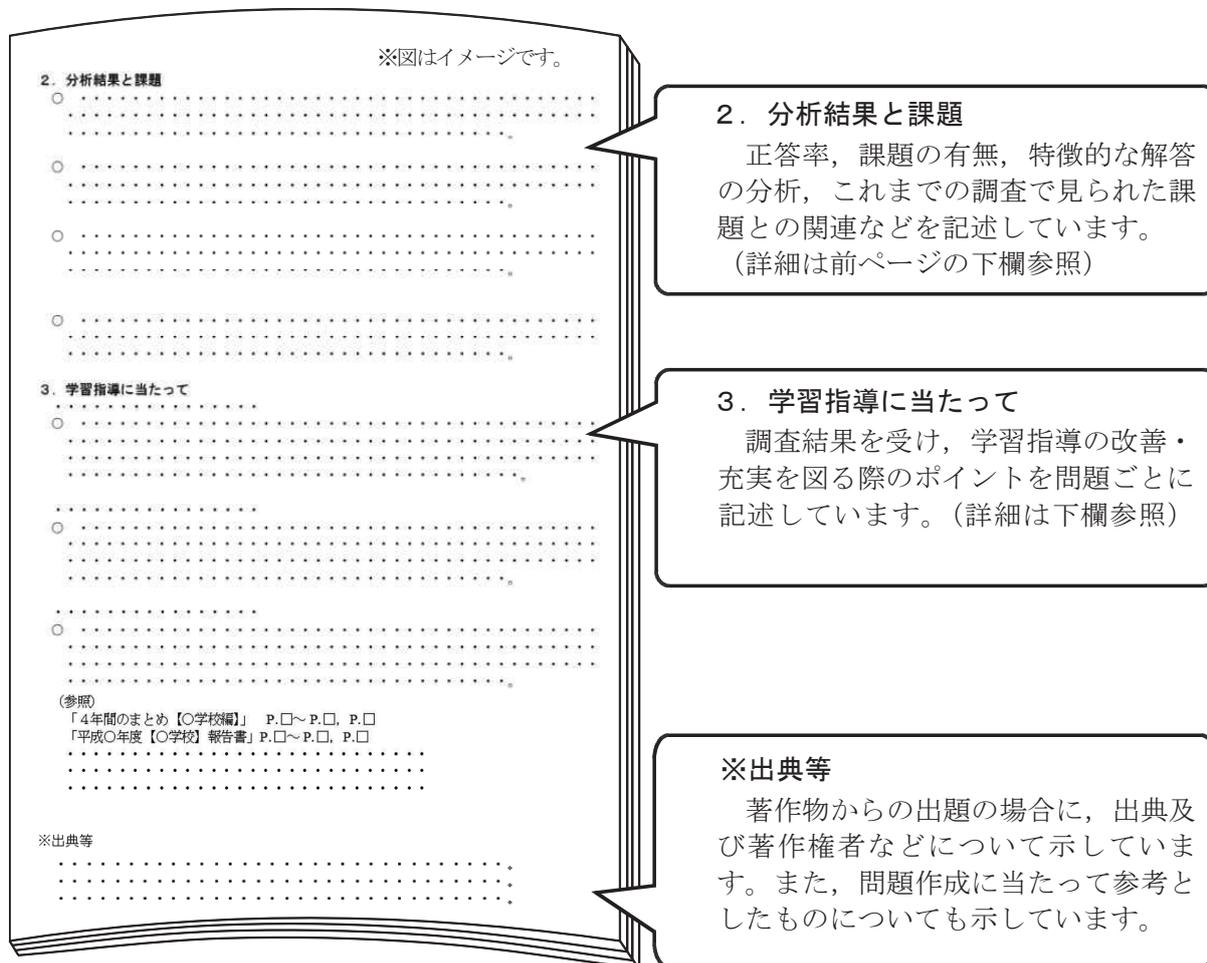
「○」… 問題の趣旨に即し必要な条件を満たしている正答

※ 反応率は小数第二位を四捨五入したものであるため、「◎」と「○」の反応率の合計と正答率が一致しない場合や合計が100%にならない場合があります。

分析結果と課題

問題ごとに、以下の内容について記述しています。

- ・ 正答率、課題の有無
- ・ 特徴的な解答について、反応率、解答例、課題の詳細
- ・ これまでの調査で見られた課題との関連 など



学習指導に当たって

調査問題に関係する内容について，各学年での日々の学習指導の改善・充実を図る際に御活用ください。また，本書のほか，授業の改善・充実を図る際の参考となるように，授業のアイディアの一例を示すものとして「授業アイディア例」（本年9月下旬公表予定）を作成しますので，本書及び「解説資料」（本年5月公表）と併せて御活用ください。

なお，関連する過去の調査の報告書や授業アイディア例など，これまで作成した資料の該当ページを記載していますので，これらの資料も併せて御活用ください。

本書では，以下の資料については略称を用いています。

資 料	略 称
「全国学力・学習状況調査の4年間の調査結果から今後の取組が期待される内容のまとめ～児童生徒への学習指導の改善・充実に向けて～【○学校編】」（平成24年9月発行）	「4年間のまとめ【○学校編】」
「平成○年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 ○学校 ○○」	「平成○年度【○学校】解説資料」
「平成○年度 全国学力・学習状況調査 報告書 ○学校 ○○」	「平成○年度【○学校】報告書」
「平成○年度 全国学力・学習状況調査【○学校】の結果を踏まえた授業アイディア例」	「平成○年度【○学校】授業アイディア例」
「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力，判断力，表現力等の育成に向けて～【○学校版】」（小学校：平成23年10月発行/中学校：平成24年6月発行/高等学校：平成26年2月発行）	「言語活動事例集【○学校版】」

3. 教科に関する調査の各問題の分析結果と課題

(2) 小学校 国語

国語 1 調べたことについて、資料を使ってスピーチをする（津田梅子の紹介）

1 上野さんの学級では、興味をもった人物について調べ、スピーチで紹介し合うことになりました。上野さんは、津田梅子について調べ、メモをもとに資料を画面に映しながらスピーチの練習をしています。次は、上野さんの「スピーチメモ」「スピーチ」(資料①)から(資料④)です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

「スピーチメモ」

「はじめ」 (資料①)
 ○話題の提示 (資料①)
 ・新五千円札の「顔」
 ・津田さんの説明
 「中」
 ○津田さんの業績
 ・業績1 (資料②)
 ・女子英学塾を設立 (資料③)
 ・業績2 (資料④)
 女性の英語教師を育成
 「終わり」
 ○自分の感想

「スピーチ」

(資料①)を示す) みなさん、これを見てください。今度新しい五千円札の「顔」となるのは、津田梅子さんです。私は、どのような業績を残したのかなかを調べてみました。

津田さんは、今から約百年前の教育者で、女子教育の発展に力をつくした人です。日本初の女子留学生として六歳から十一年間、アメリカで教育を受けた津田さんは、女性のための新しい学校を日本につくりたいという夢をもつようになりました。津田さんは、社会に出て活躍する女性を育てる教育の実現を目指したのです。そんな津田さんの業績の中から、二つのことを紹介します。

(資料②)を示す) 一つは、「女子英学塾」を設立したことです。津田さんは、二十四歳で再びアメリカに渡り、大学で学びます。そして一九〇〇年、三十五歳のときに、日本で学校を設立するという長年の夢を実現しました。これが女子英学塾で、今の大学と同じような勉強をする学校です。当時の日本には、女性の通えるこのような学校がほとんどありませんでした。

(資料③)を示す) もう一つの業績は、この学校で女性の英語教師を育成したことです。女子英学塾では、学生が英語教師の資格をとることを目標にかけつけていました。津田さんは、授業の中で、よく学生たちと英語で議論を交わしました。学生がどんな意見を言っても批判することはありませんでしたが、はっきりと自分の意見を言わないときは厳しく指導をしました。そして開校から三年後、第一回卒業生の半数以上が、女性で初めての英語教師の資格試験の合格者となりました。

(資料④)を示す) この地図を見てください。このように、津田さんは、社会に出て活躍する女性を世の中に送り出したのです。

津田さんは、信念をもって夢を成し遂げ、新たな道を切り開いた人だと思えます。津田さんの、だれもが社会で活躍する可能性を広げた業績は、素晴らしいと思います。私は、津田さんのこの業績が、新しいお札の「顔」となることにつながったのだと思います。



① 新五千円札の「顔」
津田梅子(1864~1929年)

② 津田梅子の業績1
1900年
女子英学塾を設立

③ 津田梅子の業績2
女性の英語教師を育成

④ 教壇になった卒業生の勤務校のある場所(1903~1912年)

1 上野さんは、「スピーチメモ」を作り、「スピーチ」の練習をしています。業績を明確に伝えるために、上野さんはどのような構成で話していますか。その説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 事実と感想とを区別できるように、「中」で業績、「終わり」で自分の感想を話している。
 - 2 感想を印象づけられるように、「はじめ」と「終わり」で自分の感想を話している。
 - 3 二つの事実を区別できるように、「はじめ」で二つの業績、「中」でもう一つの業績を話している。事実と感想とを関連づけられるように、「中」で二つの業績と自分の感想の両方を話している。
 - 4 上野さんが、「スピーチ」の練習で、「資料②」と「資料③」を使った理由の説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。
- 1 難しい言葉の意味を示すことで、聞き手に正確に理解してもらったため。
 - 2 自分の疑問点を示すことで、聞き手にもいっしょに考えてもらったため。
 - 3 スピーチでは話さない情報を示すことで、聞き手に新たな興味をもってもらったため。
 - 4 特に伝えたいことの要点をまとめて示すことで、聞き手の理解を助けるため。

- 1 黒丸の印（○）の分布が示すように、教師になった卒業生は、一生懸命に学びました。
- 2 黒丸の印（○）の分布が示すように、教師になった卒業生は、日本のさまざまな地域で働きました。
- 3 黒丸の印（○）の分布が示すように、教師になった卒業生の数は、年ごとに増えていきました。
- 4 黒丸の印（○）の分布が示すように、教師になった卒業生の勤務校は、一部の地域にかたよっていました。



〔資料④〕



三 上野さんは、「スピーチ」の練習をふり返り、話すことにしました。上野さんは、どのように話すか。次の「スピーチの一部」の内容に入る内容として最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

この部分で〔資料④〕についての説明を加えて

出題の趣旨

話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考えたり、資料を活用して自分の考えが伝わるように話したりすることができるかどうかをみる。

自分の考えや伝えたいことを話すスピーチでは、自分の立場や結論などが明確になるように、話の内容を構成することが大切である。その際、高学年においては、話の種類や特徴を意識したり、目的に応じて事実と感想、意見とを区別したりするなどして話の構成を考えることが求められる。また、音声言語だけでは聞き手が理解しにくかったり、誤解を招きそうだったりする場合などには、資料を使いながら話すことも重要である。その際には、相手や目的を一層意識し、どのような資料を用意すればよいかを考えたり、資料を提示しながら話す仕方について検討したりすることが大切である。

本問では、興味をもった人物について調べ、スピーチで紹介し合う場面を設定した。上野さんは、新しいお札の「顔」となる津田梅子の業績を調べ、スピーチメモを作成し、資料を使いながら話すスピーチの練習をしている。ここでは、話の内容が明確になるように、事実と感想とを区別してスピーチの構成を考えたり、自分の考えが伝わるように、資料を活用したりして話すことが求められる。

設問一

趣旨

目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考えることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第5学年及び第6学年〕 思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと

イ 話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答	
①	一	1	1 と解答しているもの	77.6	◎
		2	2 と解答しているもの	4.8	
		3	3 と解答しているもの	9.5	
		4	4 と解答しているもの	7.7	
		99	上記以外の解答	0.2	
		0	無解答	0.3	

2. 分析結果と課題

○ 解答類型3の中には、事実である二つの業績を話していることは捉えることができたが、事実である二つの業績と自分の感想とを区別して話す構成であることを捉えることができなかった児童もいたと考えられる。

3. 学習指導に当たって

話の内容を明確に伝えるために、構成を工夫する

○ 自分の考えや伝えたい内容を相手に分かりやすく伝えるためには、具体的な相手や目的を意識して、話の中心を明らかにすることが重要である。その上で、意見や提案、報告などの話の種類やその特徴を意識することが必要である。その際、話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別したり、詳しい説明を付け加えたりするなどの構成を工夫することが大切である。

本設問では、全体の構成について、「事実である二つの業績」と「そこから考える自分の感想」とを区別することで、話の中心である津田梅子の業績がより明確に分かりやすく伝わるように工夫している。

学習指導に当たっては、話の構成の効果について考えたことを交流する場面を設定することなどが考えられる。ここでは、本問を活用して、話の内容を明確に伝えるために構成を工夫する学習活動の例を次に示す。

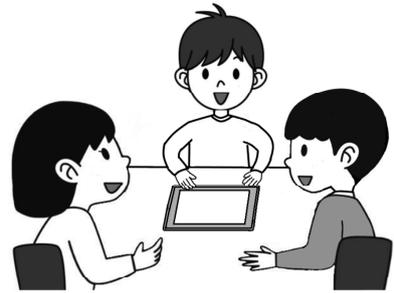
「紹介するスピーチの構成について考える」（学習活動の例）

小池さんは、ICT端末を用いて、スピーチの構成を見直している。

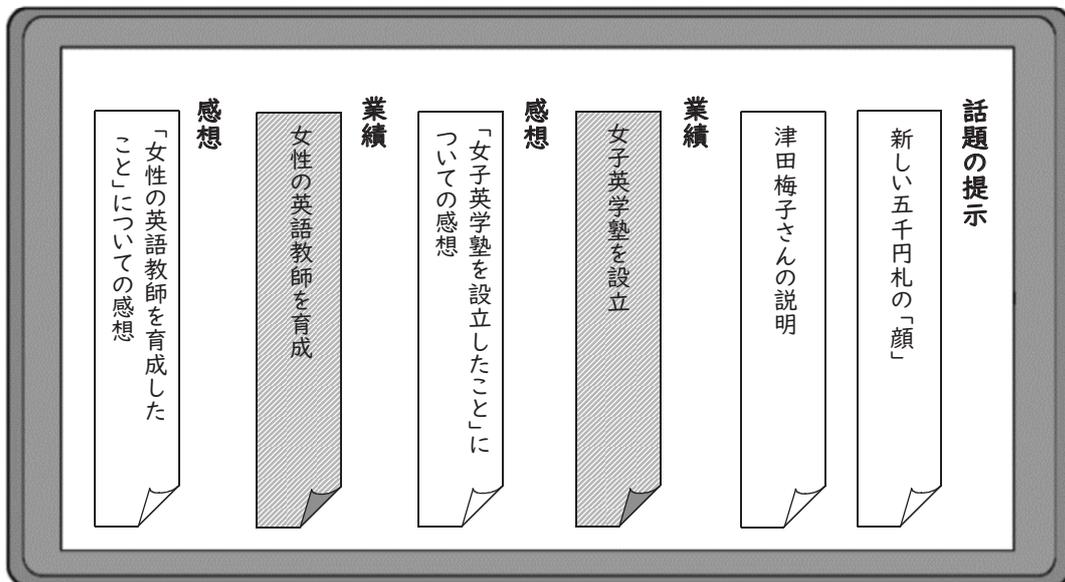


小池さん

私は、新しい五千円札の「顔」になる津田梅子さんについて、スピーチをしようと思っているんだ。お札の「顔」になるくらいすごい人がどんなことをしたのか、その業績を伝えたいと思って、〈スピーチの構成〉を考えてみたんだけど、どうかな。



はじめに小池さんが考えた〈スピーチの構成〉



古川さん

このスピーチの構成は、「津田梅子さんの業績」と「小池さんの感想」が繰り返されているけれど、小池さんがいちばんに伝えたいことは「津田梅子さんの業績」だよね。この構成だと津田梅子さんの二つの業績がばらばらな感じがして、いちばん伝えたいことが伝わりにくいと思うよ。



小池さん

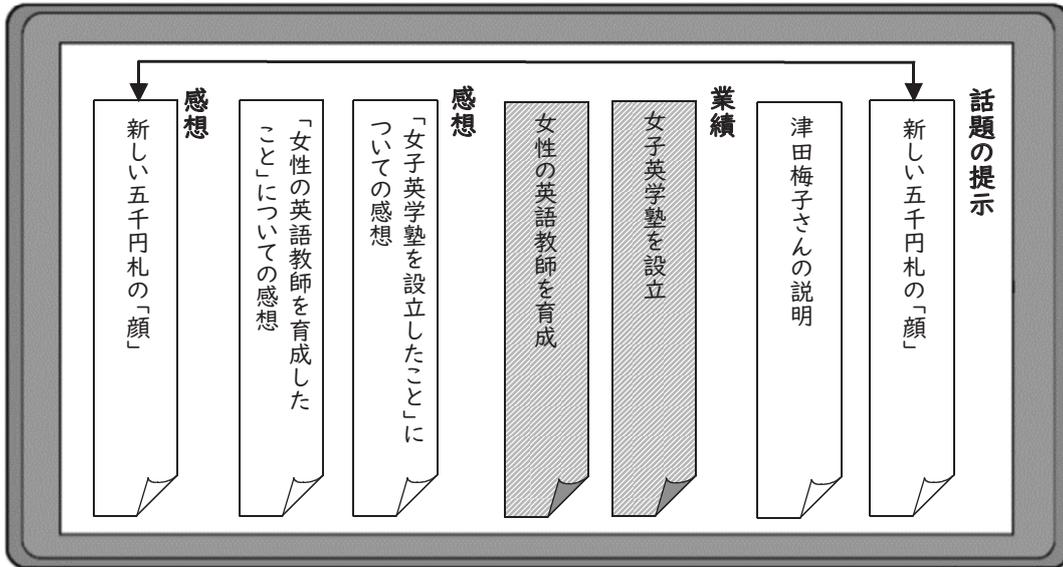
そうだね。この二つの業績はつながっているから、まとめた方が、そのつながりやすさが聞いている人には伝わりやすいね。



田中さん

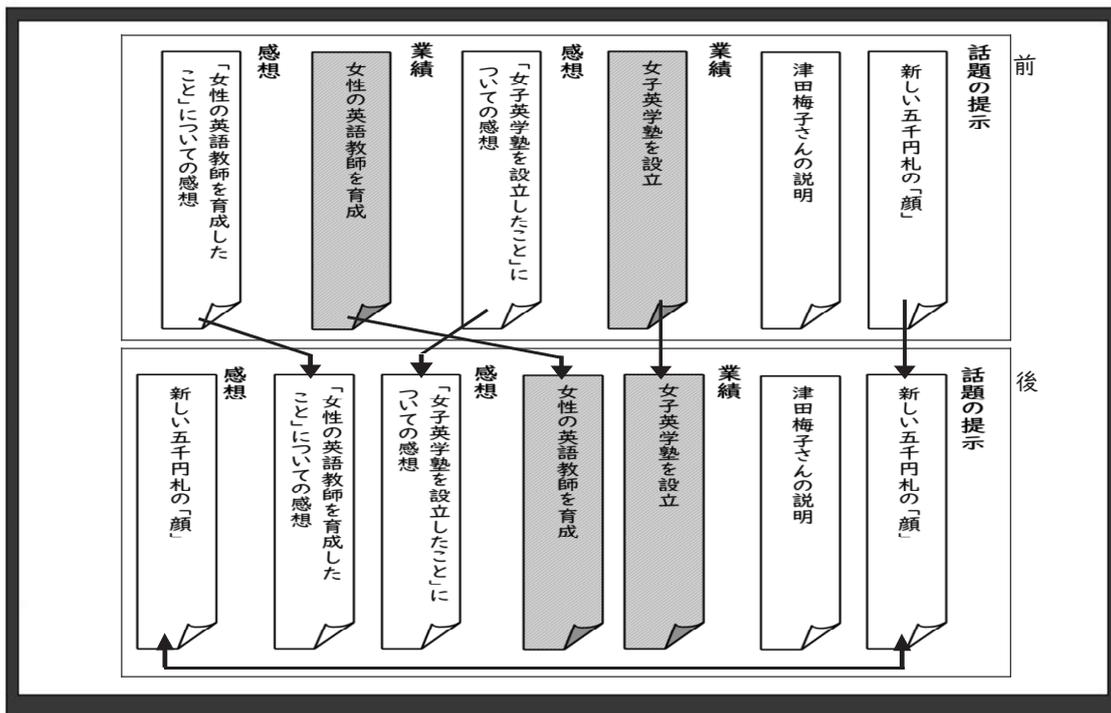
なるほど。今回は、二つの業績をまとめることで、聞いている人には津田梅子さんの業績とすばらしさが伝わりやすくなるんだね。

アドバイスをもとに小池さんが考え直した〈スピーチの構成〉



小池さん

さらに、最後にどうして津田梅子さんが新しい五千円札の「顔」になったのか、話題に対しての考えを付け加えてみたら、「話題の提示」から一貫した流れになったよ。



教師

小池さんが考え直す前と後の構成を並べて画面に映して見てみましょう。今回は、事実である二つの業績と感想とを区別したことで、話の内容がより明確になって、相手に伝わりやすくなりましたね。このように、目的に応じて、話の構成を考えることが大切です。

設問二

趣旨

資料を用いた目的を理解することができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第5学年及び第6学年〕 思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと
ウ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答	
①	二	1	1 と解答しているもの	6.1	
		2	2 と解答しているもの	6.1	
		3	3 と解答しているもの	12.2	
		4	4 と解答しているもの	75.0	◎
		99	上記以外の解答	0.1	
		0	無解答	0.4	

2. 分析結果と課題

- 解答類型1～3は、上野さんが【スピーチ】で特に伝えたい津田梅子の二つの業績について、要点をまとめて資料で示していることを捉えることができなかったと考えられる。
- 解答類型3の中には、津田梅子について聞き手に新たな興味をもってもらうために、上野さんが資料を使ったと捉えてしまった児童もいたと考えられる。

3. 学習指導に当たって

自分の考えが伝わるように資料を活用する

- 「資料を活用する」とは、音声言語だけでは理解しにくかったり、誤解を招きそうだったりする場合などに、資料を使いながら話すことである。その際、聞き手の立場に立った上で、話す内容を見直すとともに、目的に応じて、どのような資料を準備し、どのように使うかということを明確にすることも大切である。

資料を用いる目的は、説明を補足すること、伝えたいことを強調すること、聞き手に正確に理解してもらうことや一緒に考えてもらうこと、新たな興味をもってもらうことなどが考えられる。

実際に用いる資料としては、必要な文言や数値などの引用や実物、画像や映像などの使用、図解したものや重要な語句の定義付けなどの明示が挙げられる。その際、目的や相手、状況などを踏まえ、話す内容と資料の整合、適切な時間や機会での資料の提示の仕方や量などにも注意する必要がある。

実際の授業場面では情報収集の際に集めた資料をすべて使おうとする児童の姿も見られる。そのような際には、自分の伝えたいことを伝えるために必要な資料は何かを、目的や相手、状況に応じて取捨選択できるように指導していくことが大切である。

学習指導に当たっては、「令和3年度【小学校】授業アイディア例」も参考になる。

設問三

趣旨

目的や意図に応じ、資料を使って話すことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第5学年及び第6学年〕 思考力, 判断力, 表現力等 A 話すこと・聞くこと
ウ 資料を活用するなどして, 自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答	
①	三	1	1 と解答しているもの	3.9	◎
		2	2 と解答しているもの	81.1	
		3	3 と解答しているもの	7.0	
		4	4 と解答しているもの	7.5	
		99	上記以外の解答	0.1	
		0	無解答	0.4	

2. 分析結果と課題

- 解答類型3は、「社会に出て活躍する女性を世の中に送り出した」ということを伝えたい上野さんの意図を捉えることはできたが、〈資料④〉に整合する説明を加えて話すということ捉えることができなかつたと考えられる。
- 解答類型4は、〈資料④〉を使って話すということは捉えることができたが、「社会に出て活躍する女性を世の中に送り出した」ということを伝えたい上野さんの意図を捉えることができなかつたと考えられる。

3. 学習指導に当たって

自分の考えが伝わるように資料を用いる際の表現を工夫する

- 資料を用いる際の表現を工夫するとは、目的や意図に応じて、資料の順番を変えたり、資料を提示しながら話す仕方について検討したりすることである。
資料を提示しながら話す仕方について検討するためには、資料を用いる目的や意図を明確にすることが重要である。目的や意図に応じて、聞き手に提示する資料のどの部分に着目してほしいのか、また、どのような説明を加えると話の内容を分かりやすく伝えられるのかについて検討し、自分の表現に生かすことも大切である。
本設問では、「社会に出て活躍する女性を世の中に送り出した」ということを伝えるために、〈資料④〉を示し、教師になった卒業生が日本のさまざまな地域で働いたことに着目してもらえる内容を加えて、表現を工夫している。
また、実際に発表する場面では、聞き手のうなずきや表情にも注意することが重要である。その際、発表を相互に見合ったり、話す様子や聞き手の様子を動画で撮影したりして、自らの表現や聞き手の反応を客観的に捉えることが大切である。捉えたことを基に、資料を提示しながら話す仕方や視線、指示の仕方について検討することも効果的である。
学習指導に当たっては、「令和3年度【小学校】授業アイディア例」も参考になる。

(参照)

「令和3年度【小学校】授業アイデア例」P. 3～P. 4

(<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>)

令和3年9月下旬公開予定



※出典等

古木宜志子『津田梅子 人と思想 116』(1992年11月 清水書院), 高野尚好監修『人物日本の歴史・日本を変えた53人⑦』(2002年2月 学習研究社), 高木まさき監修『レジェンド伝記 津田梅子』(2019年8月 学研プラス), 落合真彩 執筆『お札になった!偉人のひみつ③』(2020年4月 教育画劇)などを参考にした。

本問の〈資料①〉は, 財務省ホームページ「新しい日本銀行券及び五百円貨幣を発行します」に掲載されている新五千円札の見本の画像を用いて作成した。

本問の〈資料④〉は, ママトクロヴァ・ニルファル「女子英学塾における教育実践の成果に関する一考察 -津田梅子のねらいと初期卒業生の進路-」(2011年3月 『早稲田大学教育総合研究所早稲田教育評論』25(1))を基にして作成した。

国語 2 説明的な文章を読み、分かったことをまとめる（「面ファスナー」）

2

相川さんの学級では、身近にある便利なものについて調べています。相川さんは、面ファスナーを選びました。次は、相川さんが読んだ【資料】です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

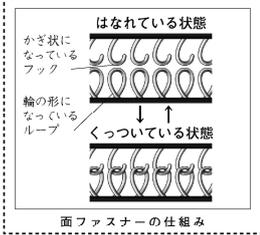
【資料】

面ファスナー

面ファスナーは、かさやくつなど、さまざまな製品の留め具として使われています。簡単にくっつけたり、はがしたりすることができ、とても便利な道具です。

面ファスナーは、一九四八年にスイスで起こったあるできごとがきっかけで開発されました。狩猟のため、愛犬をつれて山に登ったジョルジュ・デ・メストラルは、犬の毛に野生のゴボウの実がたぐさんついていることに気がつきました。不思議に思い、その実を持ち帰って顕微鏡でくわしく調べてみると、ゴボウの実は先の曲がったかき状のトゲでおおわれていることがわかりました。そのトゲが犬の毛にからみついていたのです。このことをヒントにメストラルは研究を重ね、数年後、特殊な素材を使い、面ファスナーを作り出しました。

一九六〇年に、日本ではじめて面ファスナーの製造・販売が始まりました。しかし、そのよさや使い道はなかなか世の中に伝わっていません。広く知られるようになったきっかけは一九六四年十月の東海道新幹線の開業でした。新幹線の座席のヘッドレストカバー（頭をあてる布）の留め具として、面ファスナーが採用されたのです。新幹線の清掃作業の際には、

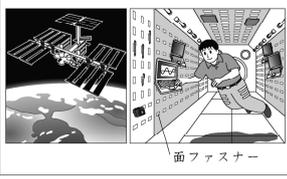


短時間でヘッドレストカバーを交換する必要があります。そのため、一つ一つ取り外さなければならぬフックやボタンより留め外しの簡単な面ファスナーの方が、留め具として適していたのです。誰もが注目する新幹線に使われたことで話題となり、その存在が日本中に知られるようになりました。

一九八〇年代には、私たちの身近にある製品でも使われるようになりました。財布やかばん、かさなどの家庭用品をはじめ、サポーターや血圧計の巻き付けバンドなどの医療用品にも広がっていききました。布のように柔軟性があり、物や体の形にぴったり合わせるができる面ファスナーが適していたからです。中でも大流行したのが、面ファスナーを使った運動くつでした。ひもぐつに比べ、手間をかけずに目的や好みに合わせてしめくあい調節することができ、よさが支持されたのです。同時に、素材の開発も進められました。現在では水に強く熱にも強い素材で作られているものもあります。

また、しっかりとくっつき簡単にはがすことができる面ファスナーは、宇宙でも使われています。地球のまわりを回る国際宇宙ステーションの中は無重力状態のため、物がうかびます。そこで活躍しているのが面ファスナーです。国際宇宙ステーション内のかべや天井には、あらゆる場所に面ファスナーがつけられています。ベンやスプーン、カメラやコンピュータなど、身の回りの全ての物が固定できるようになっています。

一人の気づきから誕生した面ファスナーは、人びとの要求に応える形で、活躍の場を広げられました。身近な生活場面だけでなく、宇宙空間にまで広がり、さらなる便利さが追求されています。



国際宇宙ステーションとその内部

- 1 相川さんが読んだ【資料】の文章は、何について、どのように書かれていますか。その説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。
- 2 面ファスナーの開発と広がりについて、時間の経過にそって書かれている。
- 3 面ファスナーの長所と短所について、それぞれの事例が交互に書かれている。
- 4 面ファスナーの長所と短所について、一つの事例が取り上げられて書かれている。

二 相川さんが読んだ【資料】の文の「より」と同じ使い方のものはどれですか。最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

そのため、一つ一つ取り外さなければならぬフックやボタンより留め外しの簡単な面ファスナーの方が、留め具として適していたのです。

- 1 音楽会は九時より始まります。
- 2 雨天により試合は延期になりました。
- 3 会場へは正門よりお入りください。
- 4 今年の夏は去年の夏より暑いです。

三 相川さんは、「資料」の——部を読み、面ファスナーのくつつく仕組みについて考えています。メストラルは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出しましたか。次の条件に合わせて書きましょう。



〈条件〉

- ヒントになったことと、面ファスナーのくつつく仕組みが分かるように書くこと。
- 「資料」の中の文章と、面ファスナーの「仕組み」から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 五十文字以上、八十文字以内にまとめて書くこと。

※左のげんこう用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。
 ※◆の印から書きましょう。どちらようで行を変えないで、続けて書きましょう。

四 相川さんは、「資料」を読み、面ファスナーが宇宙でも使われていることについてまとめています。面ファスナーは、国際宇宙ステーションの中でどのように使われていますか。次の条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

- 面ファスナーのよさを取り上げて、国際宇宙ステーションの中での使われ方について書くこと。
- 「資料」から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 五十文字以上、七十文字以内にまとめて書くこと。

※左のげんこう用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。
 ※◆の印から書きましょう。どちらようで行を変えないで、続けて書きましょう。

出題の趣旨

説明的な文章を読んで文章全体の構成を捉え、目的に応じて中心となる語や文を見つけて要約したり、文章と図を結び付けるなどして必要な情報を見付けたりすることができるかどうかをみる。

説明や解説などの文章を読み、分かったことや考えたことをまとめる際に、高学年においては、内容の中心となる事柄や書き手の考えの中心となる事柄が文章全体を通してどのように構成されているのかを正確に捉えることが重要である。また、単一の情報のみに基づくのではなく、目的に応じて文章と図表などの情報を関係付けて検討するなど、複数の情報を結び付けて考えを形成することが求められる。

本問では、身近にある便利なものについて調べるために、本や文章を選んで読む場面を設定した。相川さんは、面ファスナーについて調べるために、図が含まれた資料を読んでいる。ここでは、書き手がどのような事実を理由や事例として挙げているのかに着目して文章全体の構成を捉え、目的に応じて中心となる語や文を見付けて要約したり、必要な情報を見付けるために、文章と図を結び付けて読んだりすることが求められる。その際、思考に関わる語句などに注意して、話や文章の中で使うことができるように意識しながら読むことも大切である。

■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第5学年及び第6学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

ア 説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。

設問一

趣旨

文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握することができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第5学年及び第6学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

ア 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答	
②	—	1	1 と解答しているもの	77.7	◎
		2	2 と解答しているもの	6.9	
		3	3 と解答しているもの	8.2	
		4	4 と解答しているもの	6.7	
		99	上記以外の解答	0.1	
		0	無解答	0.4	

2. 分析結果と課題

- 解答類型2と、解答類型3の反応率の合計は15.1%である。これらは、【資料】の文章が何について書かれているかを捉えることができなかつたと考えられる。この中には、面ファスナーの長所が書かれていることは捉えることができたが、短所は書かれていないことを捉えることができなかった児童もいたと考えられる。
- 解答類型3は、【資料】の文章が、何について書かれているかだけでなく、どのように書かれているかも捉えることができなかつたと考えられる。この中には、複数の事例が取り上げられていることを捉えることができなかった児童もいたと考えられる。

3. 学習指導に当たって

文章全体の構成を捉えて要旨を把握する

- 要旨を把握するとは、「書き手が文章で取り上げている内容の中心となる事柄」や、「書き手の考えの中心となる事柄」などを把握するということである。文章を部分的に取り上げて読むだけでなく、文章全体の構成を捉えることが大切である。

本設問では、相川さんが読んだ【資料】が、何について、どのように書かれているかを捉えて読むことが求められている。「書き手が文章で取り上げている内容の中心となる事柄」がどのように構成され、書かれているのか、文章全体を通して捉えることが必要である。

学習指導に当たっては、「中心となる事柄」を把握するために、書き手がどのような事実を理由や事例として挙げているのか、どのような感想や意見などをもっているのかなどに着目して、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、文章全体の構成を捉えることができるようにすることが重要である。

また、文章全体の構成を捉えたり要旨を把握したりすることの必要性を感じられるように、活動の目的や価値を明確にしておくことが大切である。例えば、複数の文章を読む活動を取り入れることで、必要感をもって文章全体の構成を捉えたり要旨を把握したりすることができるように指導することが考えられる。

設問二

趣旨

思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使うことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第5学年及び第6学年〕 知識及び技能

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

オ 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答	
②	二	1	1 と解答しているもの	1.6	
		2	2 と解答しているもの	6.5	
		3	3 と解答しているもの	3.9	
		4	4 と解答しているもの	87.6	◎
		99	上記以外の解答	0.1	
		0	無解答	0.3	

2. 分析結果と課題

- 解答類型1～3は、複数の情報を比べる場合の言い方である「～は～より…」と同じ使い方の文を捉えることができなかつたと考えられる。
- 解答類型2の中には、選択肢2の「より」が原因を表していることを捉えることができなかった児童がいたと考えられる。

3. 学習指導に当たって

思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う

- 思考に関わる語句の使われ方を適切に捉えることは、筆者が伝えたいことを正確に捉えることにつながる。

思考に関わる語句には、「しかし」のように情報と情報との関係を表す語句、「要するに」のように情報全体の中でその情報がどのような位置付けにあるのかを示唆する語句、「考える」、「だろう」のように文の中の述部などとして表れる思考そのものに関わる語句などがある。また、「～は～より…」、「～は～に比べて…」のように複数の情報を比べる場合や、「～が～すると…」、「～になった原因を考えてみると…」のように原因と結果の関係について述べる場合の言い方なども含まれる。これらの語句に着目して読んだり、話や文章の中で適切に使ったりすることが重要である。

相川さんが読んだ【資料】には、「そのため」や「きっかけは」のように原因と結果の関係について述べる場合の言い方、「また」や「同時に」など、情報と情報との関係を表す語句などが使われている。

学習指導に当たっては、思考に関わる語句の使われ方に気を付けて読むことで、筆者が伝えたいことをより正確に捉えられることを、児童が実感できるようにすると効果的である。

設問三

趣旨

目的に応じ、文章と図表などを結び付けて必要な情報を見付けることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第5学年及び第6学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
②	三 (正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 以下の内容を取り上げて書いている。 a ヒントになったこと b 面ファスナーのくつつく仕組み ② 【資料】の中の文章と「面ファスナーの仕組み」から言葉や文を取り上げて書いている。 ③ 50字以上、80字以内で書いている。 (正答例) ・ メストラルは、ゴボウの実が犬の毛にからみついていたことをヒントに、かぎ状のフックが輪の形をしたループに引っかかることでくつつく仕組みの面ファスナーを作り出した。(80字)		
1	条件①a, bの両方と、条件②, ③を満たしているもの	34.6	◎
2	条件①a, bの両方と、条件②は満たしているが、条件③は満たしていないもの	0.0	
3	条件①a, bは満たしているが、条件②は満たしていないもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	0.1	
4	条件①aは満たしているが、条件①bは満たしていないもの *条件②, ③を満たしているかどうかは不問とする。	39.0	
5	条件①bは満たしているが、条件①aは満たしていないもの *条件②, ③を満たしているかどうかは不問とする。	11.8	
6	条件②は満たしているが、条件①a, bは満たしていないもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	8.8	
99	上記以外の解答	1.6	
0	無解答	4.0	

2. 分析結果と課題

- 平成27年度【小学校】国語B②三（正答率41.8%）では、「児童が文章と図表やグラフなどを関係付けて、自分の考えをまとめるためには、図表やグラフなどを読み取るとともに、文章と図表やグラフなどを関係付けて読むことについて指導することが必要である」と指摘している。本設問の正答率は34.6%であった。文章と図表などを結び付けて必要な情報を見付けて読むことに依然として課題があると考えられる。

- 解答類型4と、解答類型5は、相川さんが、面ファスナーのくつつく仕組みについて考えていることは捉えることはできているが、【資料】の中の文章と「面ファスナーの仕組み」とを結び付けて必要な情報を見付けることができていると考えられる。
- 解答類型4の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ 山に登ったメストラルは、犬の毛にゴボウの実がたくさんついていることを不思議に思い、けんび鏡で調べてみると、トゲでおおわれていることが分かった。(71字)
- ・ メストラルは、ゴボウの実が先の曲がったトゲでおおわれていることをヒントに、取り外しができる面ファスナーを作った。(56字)

このように解答した児童は、ヒントになったことが分かるように書いているが、面ファスナーのくつつく仕組みが分かるように書いていない。

このことから、文章から必要な情報を見付けることはできているが、図から必要な情報を見付けたり、見付けた情報を言葉に表したりすることができていると考えられる。

- 解答類型5の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ 面ファスナーのくつつく仕組みは、かぎ状になっているフックと輪の形になっているループでできています。これがくつつくと、フックがひっかかってとめることができます。(79字)
- ・ かぎ状になっているフックと、輪の形になっているループがひっかかることで、くつつけたりはがしたりすることができる仕組みを作った。(63字)

このように解答した児童は、面ファスナーのくつつく仕組みが分かるように書いているが、ヒントになったことが分かるように書いていない。

このことから、図から必要な情報を見付けたり、見付けた情報を言葉に表したりすることはできているが、文章から必要な情報を見付けることができていないと考えられる。

- 解答類型6の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ 先の曲がったかぎ状のフックでできている面ファスナーは、さまざまな製品に使われている。たとえば、財布やかばん、かさなどの家庭用品だ。(65字)

このように解答した児童は、【資料】の中の文章と「面ファスナーの仕組み」から言葉や文を取り上げて書いているが、ヒントになったことも、面ファスナーのくつつく仕組みも書いていない。

このことから、相川さんが、面ファスナーのくつつく仕組みについて書いているという目的を捉えることができず、文章と図のどちらからも必要な情報を見付けることができていないと考えられる。

3. 学習指導に当たって

目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける

- 「必要な情報を見付ける」とは、文章の中から、目的に応じて必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりすることである。

実生活において児童が触れる文章には、図表やグラフなどを含むものが多い。そのため、学習指導に当たっては、そのような文章を読む際に、文章中に用いられている図表などが、文章のどの部分と結び付くのかを明らかにした上で、文章と図表などの関係を捉えて読むことができるようにすることが大切である。文章と図表などの情報を合わせて読むことで、内容についてより深く理解したり解釈したりすることができる。その際、図表からも必要な情報を見付けたり、見付けた情報を言葉に表したりすることが求められる。指導に当たっては、「令和3年度【小学校】授業アイデア例」が参考になる。

本設問では、【資料】の文章の第二段落と、「面ファスナーの仕組み」の図とが結び付いて説明されていることを捉え、断片的な情報が互いに内容を補完し合っている関係にあることを捉えて読むことが大切である。その上で、「かぎ状」という言葉を手掛かりにするなどして「フックがループに引っかかることによってくっつく」という情報を見付けることが求められる。

なお、図表やグラフなどを含む文章を取り上げる場合には、表やグラフの読み取りが学習の中心となるなど、他教科等において行うべき指導とならないよう留意する必要がある。国語科では、図表やグラフを文章と結び付けて読み、必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることが重要である。

(参照)

「令和3年度【小学校】授業アイデア例」P. 7～P. 8

(<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>)

令和3年9月下旬公開予定



設問四

趣旨

目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第3学年及び第4学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと
ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
②	四 (正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 以下の内容を取り上げて書いている。 a 【資料】で説明されている面ファスナーのよさ b 【資料】で説明されている国際宇宙ステーションでの使われ方 ② 【資料】から言葉や文を取り上げて書いている。 ③ 50字以上、70字以内で書いている。 (正答例) ・ 面ファスナーはしっかりとくっつきかん単にはがせることから、物がうかぶ国際うちゅうステーションの中で、身の回りの全ての物の固定に使われている。(70字)		
1	条件①a, bの両方と、条件②, ③を満たしているもの	29.9	◎
2	条件①a, bの両方と、条件②は満たしているが、条件③は満たしていないもの	0.1	
3	条件①a, bの両方は満たしているが、条件②は満たしていないもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	0.0	
4	条件①aは満たしているが、条件①bは満たしていないもの *条件②, ③を満たしているかどうかは不問とする。	8.2	
5	条件①bは満たしているが、条件①aは満たしていないもの *条件②, ③を満たしているかどうかは不問とする。	44.5	
6	条件②は満たしているが、条件①a, bは満たしていないもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	10.3	
99	上記以外の解答	1.5	
0	無解答	5.5	

2. 分析結果と課題

- 本設問の正答率は29.9%であった。目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することに課題があると考えられる。
- 解答類型4の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ 面ファスナーは、留め外しがかん単な留め具なので、新幹線の清そうの際には、短時間でヘッドレスカバーを交換できる。(55字)
- ・ 面ファスナーは、留め外しがかん単にできるため、国際うちゅうステーションでも使われていて、活やくしています。(53字)

このように解答した児童は、面ファスナーのよさを取り上げて書いているが、国際宇宙ステーションでの使われ方について書いていない。

このことから、国際宇宙ステーションの中での使われ方が書かれている部分を中心に読み、必要な情報を見付けて要約することができていないと考えられる。

この中には、相川さんが、面ファスナーが宇宙でも使われていることについてまとめようとしていることを捉えることができなかった児童がいたと考えられる。また、面ファスナーが宇宙でも使われていることについてまとめようとしていることは捉えることができたが、使われ方について必要な情報を見付けることができなかった児童もいたと考えられる。

- 解答類型5の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ うちゅうステーションでは、面ファスナーは、ペンやスプーン、コンピューターなど、身の回りの全ての物の固定に使われている。(59字)
- ・ 無重力で物がうかんでしまう国際うちゅうステーションのかべや天井などに面ファスナーをつけて、身の回りの物がうかばないようにしています。(68字)

このように解答した児童は、国際宇宙ステーションでの使われ方について書いているが、面ファスナーのよさを取り上げて書いていない。

このことから、相川さんが、面ファスナーが宇宙でも使われていることについてまとめようとしていることは捉えることはできているが、文章全体の内容を正確に把握した上で、面ファスナーのよさについて必要な情報を見付けることができていないと考えられる。

- 解答類型6の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ 地球のまわりを回る国際うちゅうステーションの中は、無重量状態のため、物がうかびます。そこで活やくしてるのが面ファスナーです。(62字)

このように解答した児童は、【資料】から言葉や文を取り上げて書いているが、面ファスナーのよさも、国際宇宙ステーションでの使われ方も書いていない。

このことから、相川さんが、面ファスナーが宇宙でも使われていることについてまとめようとしていることを捉えることができず、必要な情報を見付けることができなかったと考えられる。

3. 学習指導に当たって

目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する

- 要約するとは、文章全体の内容を正確に把握した上で、元の文章の構成や表現をそのまま生かしたり自分の言葉を用いたりして、文章の内容を短くまとめることである。同じ文章でも、要約する目的によって内容の中心となる語や文は異なる場合がある。文章を要約するためには、目的に応じて文章全体から必要な部分を選び、内容を端的に説明することが大切である。その際、要約する分量などについても目的に応じて考えることが必要である。

本設問では、相川さんが【資料】を読み、面ファスナーが宇宙でも使われていることについてまとめようとしている。これを踏まえて、面ファスナーのよさや国際宇宙ステーションの中での使われ方について書かれている部分を中心に読み、「しっかりとくっつき簡単にはがすことができる」、「無重力状態のため、物がうかぶ」、「身の回りの全ての物が固定できるようになっている」といった必要な情報を見付け、50字以上、70字以内で要約することが求められる。

学習指導に当たっては、同じ文章を読んでも、読み手の目的によって内容の中心となる語や文は異なるため、要約した文章も異なるものになることを確認することが大切である。

ここでは、本問の【資料】を活用して、目的に応じて、必要な情報を見付ける学習活動の例を示す。

「目的に応じて、必要な情報を見付ける」(学習活動の例)

〈例1〉

面ファスナーが開発されたきっかけについてまとめることを目的とした場合は、きっかけとなった出来事について書かれている部分を中心に読み、「狩猟のため、愛犬をつれて山に登った」「犬の毛に野生のゴボウの実がたくさんついていることに気がつきました。」といった必要な情報を見付けて要約することが考えられる。

〈例2〉

面ファスナーが日本で広く知られるようになったきっかけについてまとめることを目的とした場合は、新幹線の座席のヘッドレストカバーの留め具として採用されたことについて書かれている部分を中心に読み、「短時間で」「留め外しの簡単な」「誰もが注目する新幹線に使われた」といった必要な情報を見付けて要約することが考えられる。

〈例3〉

面ファスナーの広がりについてまとめることを目的とした場合は、面ファスナーのよさや身近な製品に使われている具体例について書かれている部分を中心に読み、「家庭用品」、「医療用品」「柔軟性があり、物や体の形にぴったり合わせることができる」、「手間をかけずに目的や好みに合わせてしめぐあい調節することができる」といった必要な情報を見付けて要約することが考えられる。

※出典等

【資料】は、鷺見辰美監修『生活便利グッズ ホタルやスズメバチがヒント』（2009年2月 学習研究社）、石田秀輝監修『ヤモリの指から不思議なテープ 自然に学んだすごい！技術』（2011年12月 アリス館）、石田秀輝監修『ハスの葉がつくったよごれない服』（2014年2月 学研教育出版）、ワン・ステップ編『世界に誇る！日本のものづくり図鑑2』（2015年2月 金の星社）、渡部潤一監修『なぜ？どうして？宇宙のお話』（2011年7月 学研教育出版）、NHKラジオセンター「子ども科学電話相談」制作班『どうして？なるほど！地球・宇宙のなぞ99』（2013年7月 NHK出版）、的川泰宣『なぜ？どうして？宇宙と地球ふしぎの話 親子で楽しめる！』（2013年7月 池田書店）などによる。

三 丸山さんは、「文章の下書き」を読み返しています。次の(1)と(2)の問いに答えましょう。

(1) 丸山さんは、習っている漢字がひらがまになつていた——部ア、ウ、エを漢字に書き直すことにしました。

次の——部アを漢字でいねいに書きましょう。

みなさんは、休み時間後の校庭にボールが残されたままアころがっているのを見かけたことはありませんか。

次の——部ウを漢字でいねいに書きましょう。

また、遊具置き場では、一輪車や竹馬が決められた所に置かれず、すみの方にウつみ重ねられています。

次の——部エを漢字でいねいに書きましょう。

かたづけわすれたり時間がなくてかたづけられなかつたりすることが、エけんいんのだと思います。

(2) 丸山さんは、——部イとオの文について、言葉の使い方を確認しています。

次のイの文について、部「残されています」の主語として適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

イ 時には、みんなが使っていた一輪車がかたづけられずに残されています。

- 1 みんなが使っていた
- 2 一輪車が
- 3 かたづけられずに
- 4

次のオの文について、部「オぐに」はどの言葉をくわしくしていますか。適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

オ その他にも、遊び終わつたらすぐに遊具をかたづけることがむずかしい場合もあります。

- 1 遊び終わつたら
- 2 遊具を
- 3 かたづける
- 4 むずかしい

出題の趣旨

筋道の通った文章となるように文章全体の構成や展開を考えたり、目的や意図に応じて書き表し方を工夫したりしながら、自分の考えを主張する文章を書くことができるかどうかをみる。

意見を述べる文章を書く場合には、理由や事例を明確にしなが筋道を立てて自分の考えを述べる必要がある。そのためには、読み手が考えを理解しやすいように、文章全体の構成や展開を考えたり、書き表し方を工夫したりすることが大切である。また、目的や意図に応じて、提案する文章、推薦する文章などの種類を具体化し、その特徴を踏まえて書くことも重要である。

本問では、自分の考えを主張する文章を学級の友達に向けて書く場面を設定した。丸山さんは、気持ちよく学校生活を送ることができるように「一人一人が責任をもって使った物をかたづけることが大切だ」と考え、その考えに至る事例や、異なる立場の読み手への反論などを文章全体の構成や展開の中でどこに配置し、どのように書いたらより説得力のある文章になるのかを考えている。ここでは、文章全体の構成を工夫したり、理由を明確にしなが自分の考えが伝わるように書いたりすることが求められる。また、読み手に向けて書く文章であることから、特に漢字を正しく書くことや、主語と述語、修飾語と被修飾語の関係に気を付けて書くことも求められる。

■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第5学年及び第6学年〕 思考力、判断力、表現力等 B 書くこと

ア 事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。

設問一

趣旨

自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考えることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第5学年及び第6学年〕 思考力、判断力、表現力等 B 書くこと

イ 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答	
③	—	1	1 と解答しているもの	10.6	◎
		2	2 と解答しているもの	64.9	
		3	3 と解答しているもの	7.7	
		4	4 と解答しているもの	14.5	
		99	上記以外の解答	0.1	
		0	無解答	2.1	

2. 分析結果と課題

- 解答類型4は、【文章の下書き】の構成が、最初と最後の段落に主張がある双括型であることを捉えることはできたが、双括型で書くことの意図を捉えることができなかつたと考えられる。
- 解答類型1と、解答類型3の反応率の合計は18.3%である。これらは、【文章の下書き】の構成が、最初と最後の段落に主張がある双括型であることやその意図を捉えることができなかつたと考えられる。この中には、文章全体の構成や展開として、頭括型、尾括型、双括型があるということを知識として習得できていない児童もいたと考えられる。また、双括型で意見を述べる文章を書くという経験が乏しいことも考えられる。

3. 学習指導に当たって

自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える

- 自分の主張を明確に伝えるためには、筋道の通った文章であることが必要であり、文章全体の構成や展開を考えて書くことが重要である。

その手順としては、まず、自分が主張したいことは何か、それを支える理由や事例は何かを明確にする。その上で、理由や事例を、文章全体の中でどのように配置すれば自分の主張が効果的に相手に伝わるかということを考えることが大切である。

学習指導に当たっては、書く材料を整理したり関係付けたりして段落に書く内容を考えながら、文章全体の構成や展開を検討できるようにすることが大切である。児童が自ら、自分の主張が効果的に伝わるかを確かめることができるように、主張と理由や事例をカードに分けて書いたり、それらを並べ替えたりするなどの学習活動が有効である。

考えを主張する文章では、自分の考えを支える理由や事例が、読み手が納得できるものである必要がある。そのため、〔知識及び技能〕の(1)カと関連付けて、頭括型、尾括型、双括型で書かれた文章を読んだり、相手や目的を確かめたりして、自分の主張が伝わる文章の構成にはどれを生かすとよいかを考えるようにすることが大切である。

設問二

趣旨

目的や意図に応じて、理由を明確にししながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

[第5学年及び第6学年] 思考力、判断力、表現力等 B 書くこと
 ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答	
③	二 (正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 以下の内容を取り上げて書いている。 a 「そうじたん当の人などがかたづければよい」という考えに反対する意見 b 「そうじたん当の人などがかたづければよい」という考えに反対する理由 ② 【西田さんの話】から言葉や文を取り上げて書いている。 ③ 60字以上、100字以内で書いている。 (正答例) ・ しかし、遊具置き場のそうじは、かたづけで時間が足りなくなり、はきそうじやふきそうじに手が回らないことがあるそうです。たん当の人だけに任せると大変なので、わたしは、使った人がかたづけるべきだと思います。(100字)			
	1	条件①a, bの両方と、条件②, ③を満たしているもの	56.7	◎
	2	条件①a, bの両方と②は満たしているが、条件③は満たしていないもの	0.3	
	3	条件①a, bの両方は満たしているが、条件②は満たしていないもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	12.0	
	4	条件①a, ②は満たしているが、条件①bは満たしていないもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	11.8	
	5	条件①aは満たしているが、条件①b, ②は満たしていないもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	7.3	
	99	上記以外の解答	2.5	
	0	無解答	9.5	

2. 分析結果と課題

- 本設問の正答率は56.7%であった。「目的に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」に課題があると考えられる。
- 解答類型3の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ ぼくは、一人一人がしっかり責任を持ってかたづけるべきだと思います。なぜならそうじのたん当が大変になってしまうし、しっかりかたづけたら次に使う人が気持ちよく使えるからです。(85字)
- ・ そうじたん当の人がかたづければよいという意見に反対です。なぜなら遊んだ人がそれをかたづける義務があるからです。さらに、かたづけないとそうじたん当の人がめいわくだからです。(85字)

このように解答した児童は、「そうじたん当の人などがかたづければよい」という考えに反対する意見とその理由は書いているが、【西田さんの話】から言葉や文を取り上げて書いていない。

このことから、自分の考えに説得力をもたせるために、客観的な事例として【西田さんの話】を用いて詳しく書き直そうとしている丸山さんの意図を捉えることができていないと考えられる。

- 解答類型4の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ しかし、わたしは「そうじたん当の人などがかたづければよい」という考えに反対です。そうじたん当の人がかたづけると、時間が足りなくなってしまうし、はきそうじなどに手が回りません。(86字)
- ・ そうじたん当の人がかたづければよいという人がいるかもしれません。しかし、わたしは反対です。遊具置き場のそうじをたん当している西田さんは、毎日、協力して遊具をかたづけています。(87字)

このように解答した児童は、「そうじたん当の人などがかたづければよい」という考えに反対する意見は書いており、【西田さんの話】から言葉や文を取り上げて書いている。しかし、反対する理由を書いていない。

このことから、詳しく書き直すために、反対する理由を明確にして書こうとしている丸山さんの意図を捉えることができていないと考えられる。

この中には、自分の考えとそれを支える理由とのつながりが明確になるように記述することができていない解答が見られた。これらは、「なぜなら～」「理由は～」「～ので」「～から」などの理由を示す言葉を用いることができなかった児童や、考えと理由とのつながりを捉えることができなかった児童がいたと考えられる。

- 解答類型5の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ しかし、わたしは遊具は使った人がかたづけべきだと思います。図書館の本も、使った人が元の場所にもどせば、次に使う人は気持ちよく利用できると思います。
(74字)

このように解答した児童は、「そうじたん当の人などがかたづければよい」という考えに反対する意見は書いているが、反対する理由を書いておらず、【西田さんの話】から言葉や文を取り上げて書いていない。

このことから、詳しく書き直すために、【西田さんの話】を用いながら、反対する理由を明確にして書こうとしている丸山さんの意図を捉えることができていないと考えられる。

3. 学習指導に当たって

目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように詳しく書く

- 意見を述べる文章を書くとは、理由や事例を明確にしなが、筋道を立てて自分の考えを述べることである。その際、読み手に考えがよく伝わるようにするために、目的や意図に応じて、詳しく書く必要のある場合や簡単に書いた方が効果的である場合などを判断しながら書き表し方を工夫することが重要である。また、簡単に書いたり詳しく書いたりする際には、文章の量だけではなく、具体的な事実を挙げて、読み手が納得できるように分かりやすく述べることが重要となる。

本設問では、異なる立場である「そうじたん当の人などがかたづければよい」という考えに対して、反対する意見を伝えるために、【西田さんの話】を取り上げて書くことが求められる。「そうじたん当の人などがかたづければよい」という考えだけではなく、「時間が足りなくなっていること」、「はきそうじやふきそうじまで手が回らなくなること」、「きれいにそうじができなくて困っていること」という、西田さんが話していた事例を具体的に書くことで、説得力を高めようとしている。

学習指導に当たっては、異なる立場の考えを取り上げ、それに対する自分の考えを明確にできるようにすることが大切である。例えば、他者にインタビューやアンケート調査などを行い、他者の視点や異なる立場の考えを取り上げることなどが考えられる。

このように、目的や意図、文章の種類や特徴に応じて、詳しく書く必要のある場合や簡単に書いた方が効果的である場合を、自ら判断して書くことができるように指導の充実を図ることが大切である。指導の際には、「令和3年度【小学校】授業アイデア例」も参考になる。

次に、〈丸山さんの構成例〉と〈指導の具体例〉を示す。

〈丸山さんの構成例〉

終わり	中	はじめ
◎ 一人一人が責任をもってかたづけられることが大切だと考える。 使った人がかたづけなければ、次に使う人は気持ちよく利用できる。 西田さんの話 ・時間が足りなくなっていること ・はきそうじやふきそうじまで手が回らなくなる ・きれいにそうじができて困っていること 異なる立場に向けた考え たん当の人がかたづければよいという考えもあるが、使った人がかたづけるべきだ。	◎ 一人一人が責任をもって使った物をかたづけることが大切だ。 理由と事例 きちんとかたづけられれば、気持ちよく遊べるから。 ・休み時間後の校庭にボールが転がっていること ・みんなが使っていた一輪車が残されていること ・一輪車や竹馬がすみの方に積み重ねられていること	◎ 一人一人が責任をもって使った物をかたづけることが大切だ。 主張
主張	事例	主張

〈指導の具体例〉

文章全体の構成や展開を考える

文章全体の構成や展開を考える際に、「構成表」を作成することなどが考えられる。その際、必要に応じて、〈丸山さんの構成例〉をもとに双括型のよさを考えるようにする。「自分の考え」をカードに書き、その配置により、頭括型、尾括型、双括型となることを捉え、それらのよさについて考える活動を取り入れることが効果的である。文章全体の構成を捉えるために、ICT機器を活用することも考えられる。例えば、自分の考え、理由、事例などを色分けするなどして、視覚的に事実と考えが区別されていることの手かりやすさを確認すると効果的である。

文章全体の構成を見直し、簡単に書くか詳しく書くかの判断をして記述する

文章の構成を終え、記述の段階に入る前に、再度、書く目的や意図を確かめて、文章全体の構成や展開を見直すことなどが考えられる。その際、説得力を高めるために、どの部分を簡単に書く必要があるか、詳しく書く必要があるかを検討しておくことが効果的である。その後の記述の段階で、検討したことを生かして、簡単に書くのか、詳しく書くのかを判断しながら書くようにする。詳しく書く必要があると判断した際には、適切な材料を増やして詳しく書き表すようにする。必要に応じて、簡単に書いている文章や、詳しく書いている文章の例を提示して、効果の違いを確かめる学習を取り入れることが考えられる。

考えと理由や事例のつながり確かめながら詳しく書く

適切な材料を増やし詳しくするために、自分の考えを支える理由や事例を検討する活動を取り入れることなどが考えられる。その際、自分の考えとそれを支える理由や事例といった関係性が明確になっているか、事例は客観的な事実裏付けられているものかどうかを吟味することが重要である。そのためには、考えと理由や事例のつながりを友達同士で確認し合い、読み手の視点に立って考えを深めるようにすることが効果的である。

(参照)

「令和3年度【小学校】授業アイデア例」P. 5～P. 6

(<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>)

令和3年9月下旬公開予定



設問三(1)ア, ウ, エ

趣旨

学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第5学年及び第6学年〕 知識及び技能

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

エ 第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答
③	三 (1) ア	1 「転(がって)」と解答しているもの	78.4	◎
		99 上記以外の解答	12.8	
		0 無解答	8.8	
	三 (1) ウ	1 「積(み)」と解答しているもの	54.5	◎
		99 上記以外の解答	31.1	
		0 無解答	14.3	
	三 (1) エ	1 「原因」と解答しているもの	79.1	◎
		2 「げん」を「原」と解答しているが、「いん」を「因」と解答していないもの	2.7	
		3 「げん」を「原」と解答していないが、「いん」を「因」と解答しているもの	6.0	
99 上記以外の解答		5.6		
	0 無解答	6.5		

2. 分析結果と課題

- 三(1)アの解答類型99の反応率は12.8%である。この中には、同じ部分をもつ「軽」や「輪」と解答している児童が見られた。
- 三(1)ウの正答率は54.5%であった。「積」を文の中で正しく使うことに課題があると考えられる。解答類型99の反応率は31.1%である。この中には、「重」や「罪」と解答している児童や、音読みで同じ読み方をする「績」と解答している児童が見られた。
- 三(1)エの解答類型2と、解答類型3の反応率の合計は8.7%である。この中には、「原」を音読みで同じ読み方をする「現」や「源」と解答している児童や、「原」の「小」の部分で「水」と解答している児童が見られた。また、「因」と同じ部分をもつ「困」や、「因」の中の部分の「大」を「犬」と解答している児童が見られた。

3. 学習指導に当たって

文や文章の中で、漢字を正しく使う

- 漢字の学習指導に当たっては、日常生活の中で適切に使うことができるようにすることが重要である。そのためには、読み方や字形に注意して繰り返し練習することにとどまらず、本設問のように、自分が書いた文章を読み返す中で、正しい使い方を習得できるようにすることが大切である。また、必要に応じて、漢字を使って、文や文章を書くという機会を設定することも大切である。漢字を調べたり活用したりする学習については、以下の資料も参考になる。

(参照)

「平成29年度全国学力・学習状況調査 報告書【小学校】国語」P. 48～P. 50

「平成30年度全国学力・学習状況調査 報告書【小学校】国語」P. 49

設問三(2)イ

趣旨

文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第3学年及び第4学年〕 知識及び技能

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

カ 主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答	
③	三	1	1 と解答しているもの	4.6	◎
		(2)	2 と解答しているもの	4.0	
	イ	3	3 と解答しているもの	67.2	
		4	4 と解答しているもの	20.2	
		99	上記以外の解答	0.2	
		0	無解答	3.8	

2. 分析結果と課題

- 解答類型4の反応率は20.2%である。主語が、文の中で「何が／だれが」を表す言葉であることを理解できておらず、主語と述語との関係を捉えることに課題があると考えられる。「かたづけられずに」は「残されています」と修飾語、被修飾語の関係となる言葉であるが、「残されています」の直前にあるため、主語と述語の関係となる言葉であると混同してしまっていると考えられる。

3. 学習指導に当たって

主語と述語との関係について理解する

- 主語と述語との関係について、低学年から繰り返し指導することが大切である。その際、主語と述語が適切な係り受けの関係となっていることが、伝えたいことを相手に正確に伝える上で重要であることに気付くことができるように指導すると効果的である。

本設問のように、自分が書いた文章を読み返す際に、言葉の使い方を確認する習慣を身に付けておくことが重要である。

学習指導に当たっては、日常的に主語が何かを意識して文章を書くように指導することが大切である。その際、読み手の立場に立って主語を省略せずに示したり、主語と述語のねじれがないかを確認してから伝えたりすることができるように指導する必要がある。〔思考力、判断力、表現力等〕の「B書くこと」の「推敲」に関する指導事項などとの関連を図り、指導の効果を高めることが考えられる。

また、主語と述語を書き出したカードを組み立てて意味の通る文を作る活動や、主語と述語の照応関係が複数ある一文を二文に分ける活動を通して指導することも考えられる。本設問のように、「かたづけられずに」を「残されています」の主語と捉えてしまう児童もいるため、主語と述語以外の言葉が、文の中でどのような働きをしているのかについて考えることができるように指導することも必要である。

設問三(2)オ

趣旨

文の中における修飾と被修飾との関係を捉えることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第3学年及び第4学年〕 知識及び技能

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

カ 主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答	
③	三 (2) オ	1	1 と解答しているもの	30.0	◎
		2	2 と解答しているもの	18.6	
		3	3 と解答しているもの	43.8	
		4	4 と解答しているもの	3.3	
		99	上記以外の解答	0.2	
		0	無解答	4.0	

2. 分析結果と課題

- 本設問の正答率は43.8%であった。修飾と被修飾との関係を捉えることができず、文の構成を理解することに課題があると考えられる。
- 解答類型1は、「すぐに」が動きを表す語句に係って詳しくすることは理解できているが、文の中でどの語句に係るかを理解できていないと考えられる。また、直前にある「遊び終わったら」という言葉を「すぐに」で補足していると捉えてしまったと考えられる。
- 解答類型2は、文の意味を捉えずに、「すぐに」が直後にある「遊具を」に係っていると捉えてしまったと考えられる。

3. 学習指導に当たって

修飾と被修飾との関係を理解する

- 修飾と被修飾との関係に気を付けて、文の構成を理解することは、自分の思いや考えをより適切に表現する上で重要であることに気付くことができるようにすることが大切である。
本設問では、「すぐに」が「かたづける」という動きを表す語句を詳しくしていることを捉えることが求められる。
学習指導に当たっては、修飾語には動きを表す語句を詳しくする場合と、ものや人などを詳しくする場合があることを理解できるようにすることが大切である。そのためには、修飾語を加えて文を詳しくしたり、修飾語がどの語句を詳しくしているのかをはっきりさせたりすることを指導すると効果的である。また、修飾語は直前や直後の語句を詳しくすると捉えてしまうことがあるため、離れた語句を修飾する場合もあることを理解できるようにすることも必要である。指導の際には、以下の資料も参考になる。

(参照)

令和2年度全国学力・学習状況調査【小学校】国語③二(1)(2)

